

# テジカメの肝



たくき よしみつ

2

### ネックストラップで手ぶれを防げ！

前回、室内で人物を撮るときはフラッシュを使うなということを書きました。

しかし、フラッシュを使わなければシャッター速度が長くなり、手ぶれしやすくなります。

フラッシュを使わない撮影は、手ぶれとの戦いと言ってもいいでしょう。

コンパクトデジカメにはたいてい短い「リストストラップ」（手首にひっかけるストラップ）が付属していますが、まずはこれを捨てて、首からぶら下げられる長さの「ネックストラップ」に替えてください。

そう、この写真の楽人くんのように（彼にはちょっと長すぎる気がしますが……）。

そして、撮影時には両手を前につきだし、ネックストラップをピンと張った状態でシャッターを押します。こうすることで、首と両手の3点支持となり、俄然、手ぶれしにくくなります。

ストラップは100円ショップで売っているもので十分です。効果は絶大ですので、ぜひお試しください。



● PENTAX K100D+シグマ18-75mm／全域F2.8  
1/50 秒、F2.8、絞り優先、ISO 200、50 mm（75 mm相当）

## 草花はマクロ撮影が楽しい

雨上がりの道端で見つけた小さな花。不勉強で名前が分かりません。

草花の写真は、思いきり寄って大きく写さないと面白くありません。

多くのデジカメには「マクロ撮影」という機能がついていますので、これを使います。撮影モードの切り替えのところにある「チューリップのアイコン」が目印です。

マクロで写すと、肉眼で見ていたときには気づかなかったものまで写し込まれます。後から「へえ～、この花はおしべが8本だったのか」などと気づかされ、新たな発見が楽しめます。

コンパクトデジカメでも、マクロモードにすると大迫力の写真が撮れます。まだ一度もマクロを試していないかたは、ぜひ体験してみてください。



●KONICA MINOLTA DiMAGE A200

1/250秒、F 3.5、絞り優先、ISO 80、露出補正-2/3、50.80 mm (200mm相当)

### トリミングで被写体の範囲を絞る

近所の公園で犬にカメラを向けたところ、ニッと笑ってくれました（ほんと！）。

今までこのコラムで使った写真はすべて「トリミング」をして、見せたい部分だけを切り取っています。

今回の写真も大胆にトリミングしています。元の写真も一緒に載せておきますので、参考にしてください。犬だけを切り取ることで、見せたいものがはっきりし、よい写真になります。

トリミングは最も基本的な編集操作ですので、どんな画像編集ソフトでもできます。私はフリーソフトのIrfanViewをよく使いますが、デジカメを買うとついてくるオマケソフトなどでもできます。マウスで範囲を四角くドラッグして切り取るだけ。

気に入った写真はトリミングして、よりよい構図に仕上げる習慣をつけましょう。



↑これがトリミングした「作品」

↓これが元の写真



---

● NIKON D70+ニッコール85mm／F1.8 フィルムカメラ用単焦点レンズ  
1/200秒、F1.8、絞り優先、露出補正-1/3、85 mm (127 mm相当)

## 小型デジカメをいつもポケットに

免許の書き換えに警察署まで行く途中、駅前のビルでこんな光景に出くわしました。ポケットにいつも入れている小型デジカメでパチリ。最近はやりのケータイの内蔵カメラの性能がかなりよくなってきましたが、ケータイと専用のデジカメでは、やはり写真の出来に雲泥の差が出ます。この写真を例に取れば、ケータイ内蔵カメラでは、空の青がきれいに出なかったでしょう。私は、スティック状のボディで、レンズと液晶画面が分割回転するモデルを愛用しています（スイバルモデル、などといいます）。このように、上を見たときにもしっかり構図を決められるからです。残念ながら、このタイプの小型デジカメは市場から姿を消してしまいました。ぜひ復



活させてほしいものです。

●PENTAX Optio X

1/800秒、F4.3、5.8 mm（35mm相当）

## 彩度を上げて色味を強調する

池のそばで、タゴガエル（上）とシュレーゲルアオガエル（下）が道ならぬ恋に落ちているところをパチリ。（こういうのを「異種包摂（いしゅほうせつ）」と呼ぶそうです）

さて、撮った写真がなんとなくねぼけた色になっていると感じたことはありませんか？

最近のデジカメは画素数を欲張りすぎて、色再現が弱くなっている気がします。ケータイの内蔵カメラで撮った写真なども、必ず色が薄くなりますね。

そんなときは、画像ソフトで「彩度」を上げて色味を強調してやると見栄えがよくなります。彩度の調整はたいていの画像ソフトで簡単にできます。

この写真も、カエルの色の違いをはっきり見せるため、多少彩度をあげてみました。

しかし、この二匹の恋の行方は.....気になりますね。



---

●KONICA MINOLTA DiIMAGE A200

1/20 秒、F3.5、ISO 200、露出補正-2/3、50.80 mm（200mm相当）

## デジタルズームはあまり意味がない

デジカメのズーム倍率表示には「光学〇倍、デジタルズーム〇倍」などとあります。

「光学」ズームの倍率はレンズそのものの性能で、拡大された画像が実際に記録されますが、デジタルズームというのは、記録した画像をカメラの内部でトリミング（周りを切り取る）し、電子的処理で大きく見せています。光学ズームと違って、切り取った分、解像度が下がります。

古くは、カメラの中でダミーの画素を付け加えて加工している「デジタルズーム」もありました。これは論外ですね。そうした処理は、後から画像ソフトで思う存分やればいいのです。

この満月の写真は200mmのレンズで撮ったものですが、上下同じものです。下は画像ソフトで後から周囲を切り取ったので大きく見えます。これがまさに「デジタルズーム」の原理。

つまり、デジタルズームなんて必要ないんですね。チェックすべき本当のズーム性能は「光学ズーム」のほうですので、間違えないようにしましょう。



---

● NIKON D70+ニッコール200mm/F4

1/500秒、マニュアル露出

### ホワイトバランス「曇り」を試す

夕方撮った写真が妙に青っぽくなってしまった経験はありませんか？

これは「ホワイトバランス(WB)」という、色味を調整する機能が正しく動作しなかったためです。

普通は「オート」にしておけば、どんな状況下でもそれなりの色で撮れるのですが、夕方の風景や森の中などでは、ホワイトバランスの自動調整がうまくいかないことがよくあります。

プロは白い紙を用意しておき、その紙が白く写るよう、手動で調整したりしますが、アマチュアの我々は、なかなかそこまでやろうとは思わないですよ。簡単に対応できないものでしょうか。

どんなデジカメにも、オートの他に、いくつかのホワイトバランスがプリセットで用意されています。晴天屋外、曇天屋外、蛍光灯室内、白熱球室内.....などは、安価なモデルにもたいてい用意されていて、モードダイヤルなどで簡単に切り替えることができます。

夕方の屋外では、ホワイトバランスを「曇り」モードにすると、暖かい色味になり、きれいに撮れることがあります。夕焼け空などは、オートだけでなく「曇り」モードでも撮っておきましょう。赤がより鮮やかになります。



今回のサンプルでは、上は「オート」で撮って青みがかってしまった例、下は「曇り」モードで撮った例です。

---

Panasonic DMC-LC1

1/125 秒、F2.0

### 逆光の場所では自動露出にしない

毎年、天皇家の儀式・新嘗祭（にいなめさい）のために、全国47都道府県から選ばれた農家が米を献上します。今年はわが川内村の秋元美誉（よしたか）さんが選ばれ、先日「御田植祭」が行われました。

田植えをする秋元さんとお孫さんの姿です。

いい風景なのですが、完全な逆光で、露出をオートにすると顔が黒くつぶれてしまいます。

こういうときは、顔の表情が分かることを優先し、デジカメの露出補整でプラス側に補正しながら撮ります。

結果、秋元さんの白装束は、背中側が完全に真っ白に抜けてしまいましたが（白飛びと言います）、なんとか表情は分かりますね。

後から画像ソフトで明るめに補整することもできます。この写真も後から補整しています。

いつも言うことですが、こうした難しい状況でほど、失敗写真が量産されることを覚悟して、何枚も撮っておきましょう。デジカメはいくらでも失敗してかまわないのですから。



NIKON D70 + タムロン18-250mm/F3.5-6.3

1/400 秒、F6.3

露出補正 -2/3

200.00 mm (300 mm相当)

## 白いものは露出を暗めにして撮る

同じ村でヤギ7頭と暮らしている「まきのやぎお」さんのところにお邪魔したときに撮ったヤギの「ハッパ君」です。お茶目な性格の可愛い子ヤギでした。

黒いものを撮るのも難しいですが、白いものをきれいに撮るのはもっと大変です。

主役が白い場合、白い部分が全部均一に真っ白になってしまうことがあります。「白抜け」「白飛び」などといいます。

オートモードで撮ると主役が「白飛び」しそうだと思ったら、露出補整で暗めにして撮りましょう。

暗い写真を後からフォトタッチソフトなどで多少明るく補整することはできますが、その逆に、白飛びした写真の色を甦らせることはできません。白飛び部分はまったく色情報が残っていないので、暗く補正しようとしても色が出てこないのです。

以前に解説した「オートブラケット」機能を使って、自動的に露出を変えた写真を連写しておくのもよい方法です。



NIKON D70+タムロン18-250mm/F3.5-6.3

1/200 秒、F7.1

露出補正 -1/3

58mm (87 mm相当)

## 最新の「手ぶれ補正機能」は威力絶大

モリアオガエル繁殖地として国の特別天然記念物にもなっている平伏沼（福島県川内村）で撮ったモリアオガエルの卵塊です。溶けかけて、オタマジャクシが少しずつ沼に落ちようとしています。かなりの望遠で撮ったので、手ぶれ写真が量産され、まともに写っている写真を探し出すのが大変でした。

最近のデジカメの多くは、手ぶれを検知し、機械的に補正するシステムを搭載しています。

同じ条件で、手ぶれ補正なしの一眼レフと手ぶれ補正ありのコンパクトデジカメで撮ると、手ぶれ補正ありのコンパクト機のほうがピシャッとピントの合った写真がたくさん撮れたりします。

つまり、手ぶれ補正機能の威力は絶大。もはや必須と言ってもいいでしょう。

一眼レフの場合は、レンズ内に手ぶれ補正機能を組み込んでいるものと、カメラ本体側に組み込んでいるものがありますので注意してください。カメラ本体側に組み込んであれば、昔の35mmフィルム一眼レフ用のレンズや、一般的な手ぶれ補正機能なしのレンズなど、どんなレンズをつけても機能します。



---

NIKON D70 +タムロン18-250mm/F3.5-6.3

1/100 秒 F 6.30

250.00 mm (375mm相当)